

# 茨城県稲敷市立あずま南小学校 (学校長 池田 和男)

実施日	平成20年1月18日(金)	時間	午後12時～午後4時
実施場所	教室、体育館	対象/人数	5～6年生28名
担当教諭	木内 雄一	ファシリテーター	辻 真利子
講師	カリンダ・マルコンデス(ドイツ・留学生) ルトゥジャ・キベ(インド・留学生) フウ・シャオチン(中国・留学生) アレハンドロ・マルチネス・トリオ(スペイン・留学生) クリスピン・スコット(アメリカ・留学生) セヴェリン・ゲルフィン(スイス・留学生)		

## 活動内容

- ・交流給食会
- ・あいさつゲーム(構成的グループ・エンカウンターの手法を用いて)・児童による質問コーナー
- ・講師の特技披露 / 民族衣装体験
- ・日本の食文化紹介
- ・剣道で講師の方々と交流

## 児童の感想

・日本に来てまだ1年もたっていないのに、6人の講師の方々は頑張って日本語で、自己紹介してくれた。質問コーナーでは、私たちが総合的な学習の時間で調べてきたことをもとに、講師の方々の国についての印象を話した。とても緊張したが、私の話を真剣に聞いてくれた。調べてきたことと、少し違うところがあることを講師の先生から教えていただき、直接、話し合うことは大切なことだと感じた。

・質問コーナーで僕が特技について話し、講師の方々の特技について質問した。歌やバイオリンの特技を披露していただいた。音楽は言葉がわからなくても、みんなが一つになれるように感じた。

・講師の方々に和菓子のことを紹介するために、いろいろな事を調べた。なんとなく、分かっているつもりだったが、あらためて和菓子のよさを知ることができた。家でもお母さんと一緒にみたらし団子を作って、家族で食べてみた。

・和菓子の作り方について紙芝居で紹介した。上手に紹介できるか心配だったが、それ以上に、講師の方々がおいしく食べてくれるが心配だった。日本語で、「おいしい」と講師の方が言ってくれたとは、とてもうれしかった。

・剣道の交流では、防具をつけた講師の方々が日本人と全く変わらないように感じた。剣道を習っている友達が相手をしたが、どちらもとても迫力のある声を出していた。外国から来て、日本人でも経験しないことをしっかりと身に付けていたの

でびっくりした。

## 先生の感想

- ・質問コーナーの内容や日本の文化紹介について、総合的な時間の学習を活用しながら、意欲的に取り組んできたので、交流会当日は自信をもって活動することができた。本校は平成13年度より、国際交流集会を実施しており、継続することが児童のコミュニケーション能力の向上につながっていると感じた。
- ・留学生の皆さんが日本語で書いてくださったメッセージカードを見て、子どもたちはとても感動したようである。外国に行き勉強することの素晴らしさを感じた子や自分は外国に行き勉強できないと感じる子など、さまざまな反応があった。

## 成果と課題

- ・昨年度の経験を活かしながら、ファシリテーターの方と事前の打合せを繰り返し、方向性が見えた。ファシリテーターが来校しての打合せでは、スムーズに行うことができた。また、子ども達からもさまざまなアイデアが出て来るようになっており、国際交流集会を自分たちが積極的に運営しようとする姿が見えてきた。
- ・マンネリ化を防ぐためには、子ども達の意欲を引き出せるように学習の支援をすすめていかなければならない。

